



第2編

まちづくり基本構想



第2編 まちづくり基本構想

1 蒲郡市民憲章に基づくまちづくり

昭和 47 年 11 月 3 日に「蒲郡市民憲章」が制定され、本市の望ましいまちづくりの姿を掲げ、よりよいまちをめざしてきました。

今後も本市のまちづくりの根本的な理念として、「蒲郡市民憲章」を踏まえ、基本構想を実現するための取組を市民・事業者・行政が一丸となって進めます。

【蒲郡市民憲章】

蒲郡市は、美しい自然にめぐまれ、先人の努力によって育ってきました。

私たち市民は、この誇りをもって、さらに、教養と文化を高め、産業を振興し、明るい豊かな郷土をつくるために、三つの誓いを定めます。

- 1 「はい」「ありがとう」「すみません」、愛のことばで ひとづくり
- 2 心と体をすこやかに、笑顔で働き いえづくり
- 3 海と空を美しく、みんなの力で まちづくり

2 将来都市像

1 まちづくりの基本理念

本市は、豊かな自然や美しい三河湾の恵み、恵まれた地理的条件の中で、先人たちのたゆまぬ努力により、社会・産業・文化など調和のとれた豊かな地域として発展してきました。今後も豊かな自然の中で市民の健康と暮らしを守り、誰もが健やかに安心して暮らすことができるようにまちの土台を維持する必要があります。さらに、本市の強みを生かした持続可能なまちづくりを推進していくことが求められます。

市民一人ひとりがまちに誇りと愛着を持つとともに、市民・事業者・行政が一体となったまちづくりを推進し、市民一人ひとりが輝き、希望と幸せを実感できるまちをめざし、未来へとつなげていくことが大切であると考えます。

そこで、このような考え方で、第五次総合計画において取り組むまちづくりの基本理念を以下のとおり定めます。



まちづくりの基本理念に基づき、本市のめざす将来都市像を次のとおりとします。



●豊かな自然

「豊かな自然」というかけがえのない資源を有した特色ある都市を形成しており、この魅力を今後も継承して、市民や来訪者が快適に暮らし、楽しむことができるまちづくりを一層進めます。

●一人ひとり輝く

一人ひとりが主役となり自発的に自分の力を生かし、自分らしく、生きがいを実現し、活躍できる舞台となる都市を築きます。さらに、「誰一人取り残さない」社会を築くことを理念とする SDGs の達成に向け、環境と社会、経済がバランス良く発展した持続性の高いまちをめざします。

●つながりあう

一人ひとりの価値観に応じて市民が快適に暮らし、本市を訪れる人が本市の魅力を楽しみ、人々がふれあい、交流することで、いつまでも笑顔があふれるまちをめざします。

また、人々が美しい海、山の自然やそこに育まれたまちを舞台に語り合い、絆を深め合うことで幸せを感じ、異なる価値観や文化の共生を進め、さらに新たな人づくり、まちづくりを実現していく都市「蒲郡」をめざします。

●君が愛する

市民の地元への愛着を深めてシビックプライド^{※1}を醸成し、本市で過ごす様々な人が、生活の場、産業の場、観光交流の場、挑戦できる場など、多様な活動を実現することができる場とし、都市としての価値を向上していくことをめざします。

以上のような方向をめざすため、本市の将来都市像として、

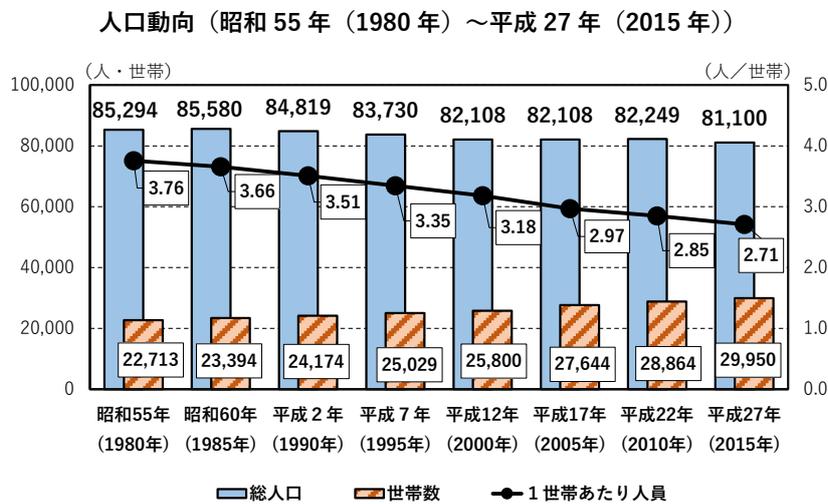
「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち

～ 君が愛する蒲郡 ～ 」を掲げます。

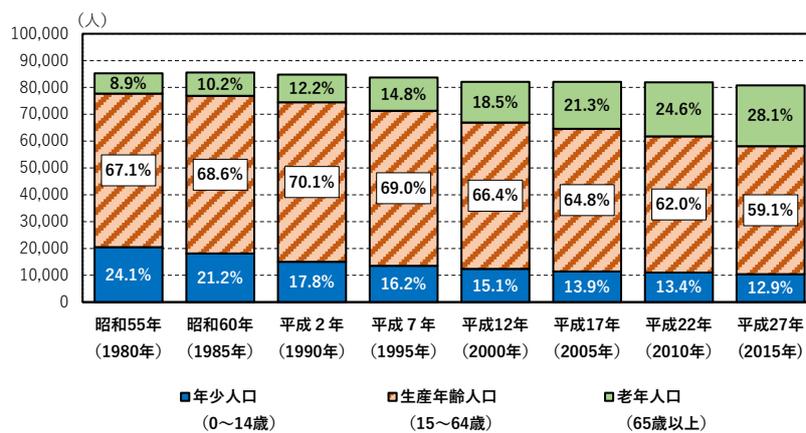
3 人口

①人口の推移

- 本市の人口は昭和60年（1985年）をピークに緩やかに減少しています。一方、世帯数は増加しており、平成27年（2015年）で81,100人、29,950世帯となっています。
- 年齢3区分別人口を見ると、老年人口割合の上昇と年少人口割合の低下がみられ、少子高齢化が進んでいます。平成27年（2015年）の老年人口は28.1%、年少人口は12.9%となっています。
- 近年の人口移動について見ると、自然増減はマイナスが続いています。死亡数が出生数を上回っており、社会増減についてはマイナスの年が多いもののプラスの年もあります（住民基本台帳）。
- 通勤・通学による流動では、昼夜間人口比率は93.5%（平成27年（2015年））であり、特に通勤では名古屋市、岡崎市など西三河、豊橋市への流出が多くなっています（国勢調査）。



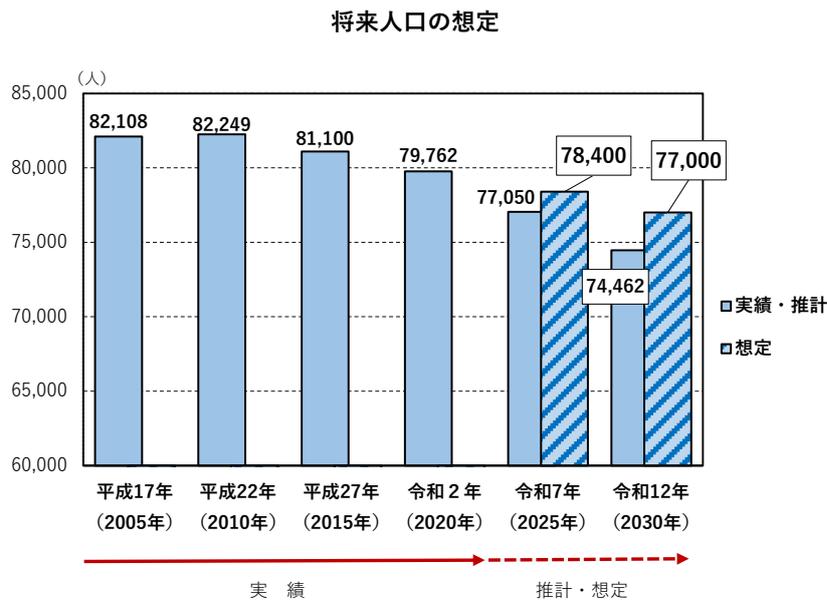
年齢3区分別人口の推移



②目標人口

- 蒲郡市の将来人口を推計すると、令和12年（2030年）には74,462人まで減少することが予想されます。
- 地域の持続性を維持するために、子育て環境の整備を図るなど、子育て世帯の流入や定住者の増加を図る必要があります。
- このため、2060年を展望した「蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」では、蒲郡市の将来人口はその目標を61,000人と掲げています。
- 第五次総合計画の推進に際しても、定住対策を充実して人口減少スピードの緩和を一層図り、「人口ビジョン」に示している目標を達成するための過程として、令和12年（2030年）の目標人口をめざします。

令和12年（2030年）の目標人口 77,000人



(注) 実績値は、平成27年までは国勢調査、令和2年は住民基本台帳人口（10月1日）を示しており、推計値は国立社会保障・人口問題研究所資料による。

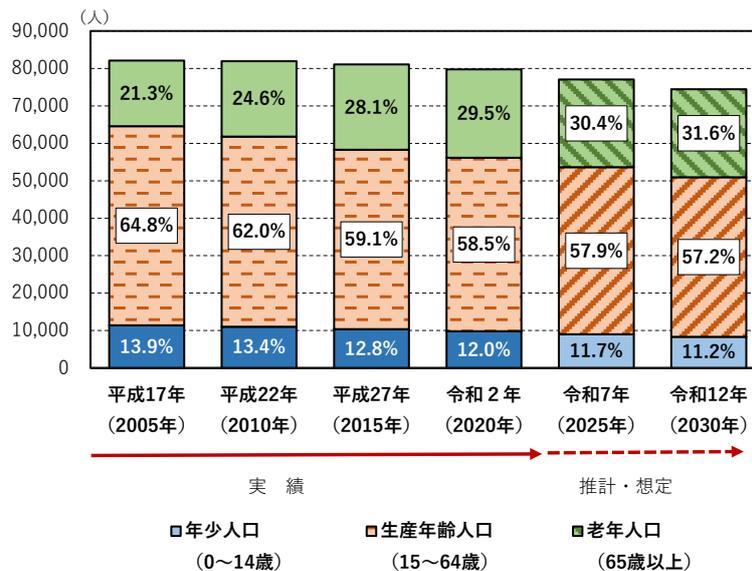
③年齢別人口

- 年齢別人口については、少子高齢化が進むと予想されますが、定住対策等により、生産年齢人口や年少人口の減少の幅を抑える想定をします。
- 令和12年(2030年)の年齢別人口の構成比は、「人口ビジョン」における同年の予想に準じて、年少人口11.2%、生産年齢人口57.2%、老年人口31.6%と想定します。

年齢別人口の想定

	実績				想定	
	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)
年少人口 (0～14歳)	11,420	11,015	10,399	9,542	9,173	8,624
生産年齢人口 (15～64歳)	53,172	50,781	47,895	46,681	45,394	44,044
老年人口 (65歳以上)	17,508	20,135	22,806	23,539	23,834	24,332
年齢不詳	8	318	0	0	—	—
計	82,108	82,249	81,100	79,762	78,400	77,000

年齢別人口の構成比の想定



(注) 平成17、22年は年齢不詳を除いた割合

【用語の解説】

※1 シビックプライド

都市に対する市民の誇りを高めて、地元へ貢献する行動を育むこと。

3 基本目標

市民憲章の考え方を踏まえながら将来都市像を実現するため、まちづくりの柱として、次の6つの基本目標を掲げます。

1 笑顔つながる幸せに暮らせるまちづくり－健康・福祉

少子高齢社会に対応していくため、安心して子どもを産み育てられるよう、妊娠期から子育て期まで切れ目のない子育て環境を整備するとともに、健康づくり、地域医療、福祉を充実し、生涯を通じて健康な生活を送ることができ、地域で互いに助け合い、支え合う福祉社会の実現に向けた笑顔つながる幸せに暮らせるまちづくりをめざします。

2 人と文化を未来につなぐまちづくり－教育・文化

子どもたちの個性や生きる力を育む学校教育や、生涯学習・スポーツの充実に努めるとともに、本市の伝統・文化の大切さを伝えることにより、我がまちに愛着と誇りの持てる次代を担う人材や、心豊かな人を育み、人と文化を未来につなぐまちづくりをめざします。

3 豊かな自然とともに安心して住み続けられるまちづくり－安全・安心

身近な自然環境を保全しつつ、ごみの減量や分別収集による資源の有効利用と環境美化の推進により、環境に負荷を与えないまちづくりをめざすとともに、循環型社会の形成などにより、誰もが自然を生かした潤いのあるまちづくりをめざします。

さらに、災害に強いまちづくりや交通安全・防犯対策の強化に努めるなど、豊かな自然とともに安心して住み続けられるまちづくりをめざします。

4 にぎわいと元気あふれるまちづくり－産業

産業間の連携強化やシティセールス、新たな産業の創出や企業立地支援の充実、企業誘致の推進により地域産業の振興や雇用の創出を図り、にぎわいと元気あふれるまちづくりをめざします。

5 人と人がつながり快適な暮らしを支えるまちづくり－都市基盤整備

市民の生活や地域経済の発展を支えるため、良好な市街地整備や道路・交通ネットワーク、港湾の充実を図るとともに、より快適な暮らしを実現するための生活基盤の整備を進め、災害に強く、人と人がつながり快適な暮らしを支えるまちづくりをめざします。

6 市民とともに歩むまちづくり－地域・行財政

社会の変化や多様化する市民のニーズに対応していくため、地域コミュニティの活性化や市民一人ひとりが活躍できる環境づくりを行い、市民とともに歩むまちづくりをめざします。また、持続可能なまちづくりのため、より適正な行財政運営を推進します。

施策の体系図

市民憲章

将来都市像

基本目標

基本施策

愛のことばで
ひとづくり
笑顔で働き
いえづくり
みんなの力で
まちづくり

豊かな自然
一人ひとりが輝き
つながりあうまち
蒲郡
君が愛する
Gamagori

1	笑顔つながる 幸せに暮らせる まちづくり 健康・福祉	1 地域医療 2 子育て支援 3 高齢者福祉 4 健康づくり 5 障がい者福祉 6 社会保障・保険分野 7 生活自立支援
2	人と文化を 未来につなぐ まちづくり 教育・文化	1 学校教育 2 スポーツ 3 文化芸術 4 生涯学習
3	豊かな自然とともに 安心して住み続け られるまちづくり 安全・安心	1 防災・減災 2 消防・救急 3 環境保全・生活衛生 4 交通安全・防犯 5 循環型社会形成
4	にぎわいと 元気あふれる まちづくり 産業	1 観光 2 商業・サービス業 3 工業 4 農林業 5 水産業 6 ポートレース
5	人と人がつながり 快適な暮らしを 支えるまちづくり 都市基盤整備	1 公共交通 2 道路 3 下水道 4 港湾・河川・海岸 5 市街地整備・都市景観 6 住宅環境 7 水道水の安定供給
6	市民と ともに歩む まちづくり 地域・行財政	1 地域コミュニティ活動 2 市民協働 3 男女共同参画 4 多文化共生 5 公共施設の適正な管理 6 行財政運営 7 開かれた市政 8 行政のデジタル化

第1編

第2編

第3編

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第4編

資料編

4 将来都市構造

将来都市構造とは、本市の市域の地理的特徴や都市を構成する要素を踏まえて、将来都市像の実現に向けての視点や基本方針を空間的かつ概念的に表すものです。

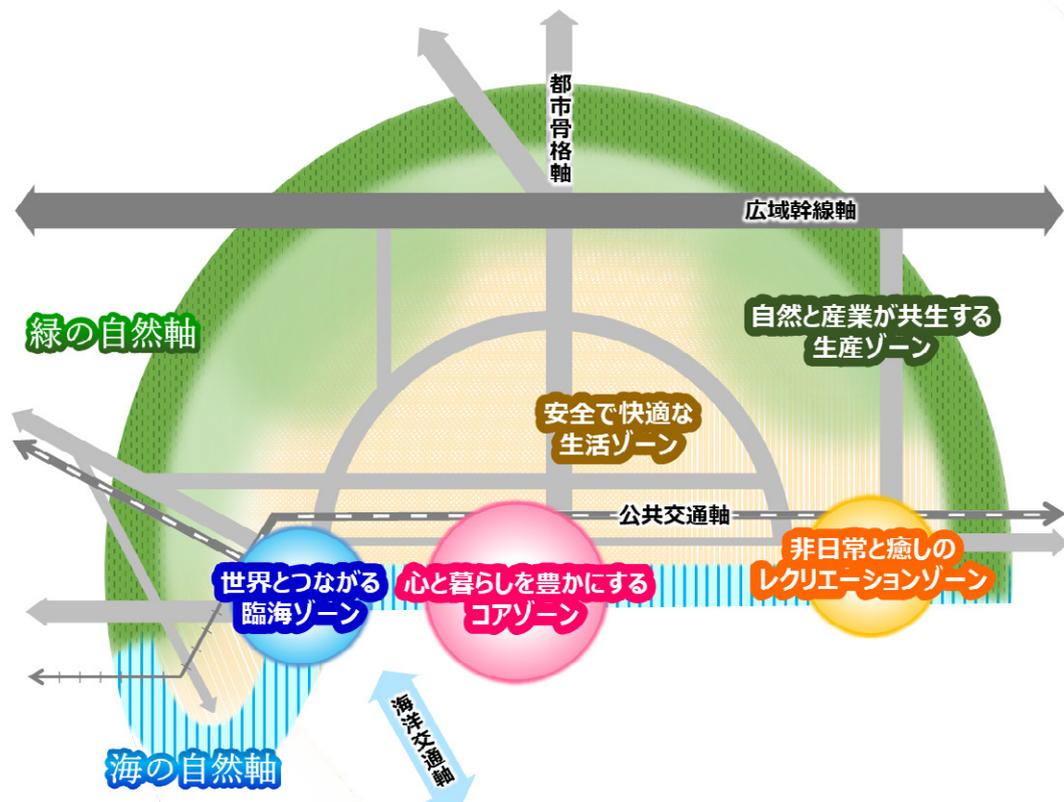
1 将来都市構造の基本的な考え方

- 本市の将来都市像を実現するためには、自然環境と調和しながら人口減少・高齢化・災害のリスクに対応した安全で快適な生活空間を形成してだけでなく、本市の特性を産業や人々の交流といった都市活動に積極的に活用し、都市としての個性と魅力を一層向上させていくことが求められます。
- そのために、本市の最大の特徴であり人々の暮らしと心を豊かにする三河湾と山並みを「自然軸」、市内の地域間や周辺都市をつなぐことにより交流を活性化させる交通ネットワークを「交通軸」、市内各地域におけるそれぞれの特性を生かした空間形成をめざす「ゾーン」を市内全域に位置づけ、これらの要素により健全な都市構造を形成します。

2 将来都市構造の概念図

- 穏やかな三河湾と山並みからなる「自然軸」を土台として、蒲郡駅周辺の「心と暮らしを豊かにするコアゾーン」を中心に、まとまりのある各ゾーンが扇状に広がります。各ゾーンでは自然軸と調和した都市活動が行われ、「交通軸」によりつながり合うことで互いに影響し魅力を高め合っています。

将来都市構造の概念図



3 将来都市構造を構成する要素

本市の将来都市構造を「自然軸」、「交通軸」、「ゾーン」という3つの要素で表します。

自然軸

本市が面する三河湾や北部の山並みといった自然が織りなす美しい風景は、風光明媚な本市のイメージを特徴づける重要な要素であり、人々の心に癒しと安らぎをもたらしています。

三河湾と山並みを「自然軸」と位置づけ、自然環境と美しい景観の維持保全を図るとともに、それぞれの特性をまちづくりの資源として活用します。

■海の自然軸

三河湾の水質浄化及び水産資源の保護や海に親しむ環境づくりを推進し、漁場及び観光・レクリエーション資源として活用します。

■緑の自然軸

森林の保全により多面的機能^{※2}を維持し、保養・レクリエーション資源として活用します。

交通軸

道路・鉄道・航路等の交通ネットワークは、都市間や市内各ゾーンを結び交流機能・防災機能を向上させ、市民生活やあらゆる経済活動を支える都市の軸です。本市のまちづくりにおいて特に重要な意味を持つ交通ネットワークを「交通軸」として位置づけます。

■広域幹線軸

主要都市間を結び、周辺都市との交流や産業活動を支える市全体の発展に重要な役割を担う交通軸です。国の重要物流道路として平常時だけでなく災害時においても安定的な輸送を確保します。

■都市骨格軸

都市の骨格を形成し、市民の安全で快適な生活環境を確保する主要道路であり、多様な役割を担っています。市街地を縦断する路線は、広域幹線軸や高速道路等と結節することで各ゾーンの都市活動を支援し、市全体の発展を支える交通軸です。市街地を横断する路線は、市内地域間の円滑な交流を促進する交通軸です。

■公共交通軸

誰もが安心して移動でき、周辺都市との交流や産業活動を支えるとともに、市内地域間の円滑な交流を促進する交通軸です。

■海洋交通軸

海を感じる街並みを生かした観光や港湾機能を活用した物流において重要な役割を持ち、蒲郡市が世界と直接つながる交通軸です。

5つのゾーン

市域をそれぞれの特徴を生かした土地利用の観点から5つのゾーンに区分し、各ゾーンにおける空間形成の方向性を表します。

■心と暮らしを豊かにするコアゾーン

交通結節点・中心市街地・観光拠点・港といった多様な要素を一体的に活用し市の基幹的な都市機能や交流機能の集積を図り、人・コト・モノがつながり新たな価値が生まれる都市発展の中心核として、人の心と暮らしを豊かにするゾーンです。

■安全で快適な生活ゾーン

生活コミュニティの拠点となる鉄道駅周辺を中心に医療・福祉・子育て支援・商業などの都市機能が集積し、年齢や障がいに関わらず誰もが安心して快適に生活できる環境が整ったゾーンです。

■自然と産業が共生する生産ゾーン

農地を保全し農業振興の基盤とするとともに、交通軸との連携を生かした物流等の多様な経済活動が行われるゾーンです。

■世界とつながる臨海ゾーン

岸壁の延伸・ふ頭再編といった港湾機能の向上や交通軸との連携による国内外からの人やモノの流れの活性化を図り、三河港の中心的な役割を担う港湾として広域経済の発展に寄与するゾーンです。

■非日常と癒しのレクリエーションゾーン

景観に配慮した一体感のある街並みが形成され、水辺空間や海洋レクリエーションを楽しむ観光拠点をはじめ、教育施設や商業施設等が立地する都市成長拠点となるゾーンです。

【用語の解説】

※2 多面的機能

森林の持つ多面的機能。生物多様性・地球環境の保全、土砂災害の防止、水源のかん養。